

きさは中位に属するが、鉍石品位は福島方面のものに比しかなり劣るが、開発は未だ半ばにあるので、今後の探鉍により量的に期待がかけられる。鉍床としては次の諸欠点が著しい。

- イ、長石鉍石は粉鉍となり易い。
- ロ、白珪石はその品位が良好でなく採掘の価値が乏しい。
- ハ、古川駅迄の運搬が不便である。

553. 613 : 550.8 (521. 72)

### 滋賀縣下長石鉍床概査報告

安 齋 俊 男

#### Résumé Some Feldspar Deposits in Shiga Prefecture.

By  
Toshio Ansai.

1. There are three mining areas of feldspar in Shiga prefecture; Ôtsu-shi, Mikumomura and Shigaraki-machi, Koga-gun.
2. The deposits are lenticular or massive aplite in biotite granite, and the ore consists mainly of K-feldspar, Na-feldspar and quartz with small quantity of micas, and most of the ore is more or less weathered to appear powdery.
3. The Hiratsu deposits near Ôtsu-shi and the Mikumo deposits promise good for both reserves and grade of ore.

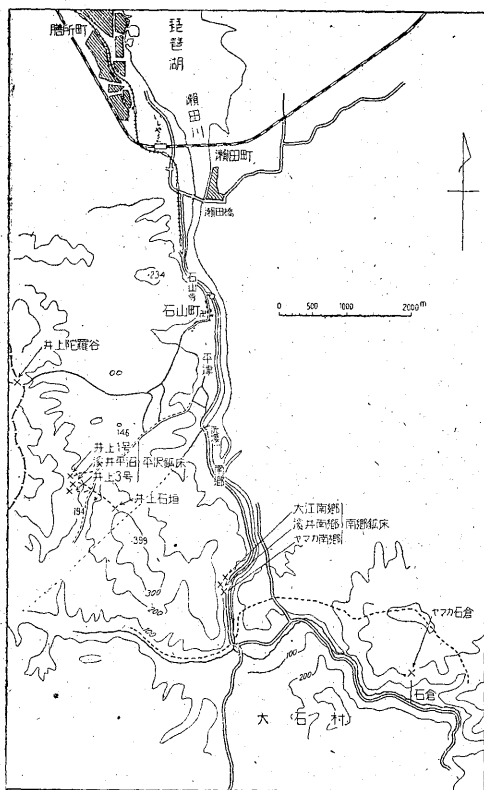
昭和 23 年 11 月、滋賀縣下大津市附近、甲賀郡三雲村、同郡信樂町附近の長石鉍床の概査を行つたので其の結果を報告する。

#### I. 大津市及び其の附近の鑛床

##### (I) 地質及び鑛床の概要

地域地質は秩父古生層の粘板岩、砂岩、珪岩、黒雲母花崗岩及び第四紀層からなる。鉍床はこの花崗岩中に発達するアプライト又はこれと漸移する優白質花崗岩で(井上石垣鉍床のみはベグマタイト)、概ねレンズ状をなす。レンズの大きさは大体幅数 10 m に及ぶ大規模なもので、大体南北に長い傾向を有し、アプライトは屢々ベグマタイト脈によつて切られることがある。

鉍石はかなり変化に富むが、大体加里長石を主とし石英を数%乃至 30%程度混え、少量の白雲母を伴うを常とする。又鉍石は一般に風化分解し、砂状ときに白土状を呈し、この傾向は高品位鉍石の場合著しい。優白花崗岩質鉍床が粗粒状に分解した鉍石は一種の“サバ”と



第1図 三雲地区長石鉍床位置関係図

云うことが出来る。

(2) 平津鑛床(井上1号, 2号, 溪井平津) 大津市平津町。東海道線石山駅より南方へ瀬田川に沿うて 4 km の間トラックを通じ、南西へ 2 km 馬車道がある。各現場へは更に木橋 3~400 m を通ずる。

鉍床は北から井上1号、溪井平津、井上2号の順に N 50°~60°E 方向に並ぶ芋状鉍体の連続と見られ、延長 200 m、幅 15~40 m 程度である。各採掘場間の鉍床連続状態は明かでないが、膨縮はあつても連続するものと推定される。鉍石は 2 種に分けることが出来る。

第 1 表

	鉱床の規模			鉱石	鉱量	既採掘量	月産	事業主
井上1号	長さ 35m	幅 15m	深 7m以上	軟質粉状アブライト質 長石、品質は均一	推定 $8.3 \times 10^3 t$ 予想 $3 \times 10^3 t$	1,500 t	100 t	井上太郎
溪井平津	40	20	25	北半、粉状アブライト質 南 半、石英を含むアブライト	推定 $3 \times 10^3 t$	15,000	60 t	溪井次郎
井上2号	40	15	10	石英を混ざるアブライト	推定 $1.2 \times 10^3 t$		休山	井上太郎

第 2 表

	1	2	3	4
SiO <sub>2</sub>	65.47	64.08	65.71	75.26
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	21.31	22.18	20.54	15.99
Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0.03	0.06	0.11	0.07
CaO	0.00	0.00	0.00	0.00
MgO	0.11	0.13	0.15	0.11
Na <sub>2</sub> O	5.30	4.68	5.24	4.89
K <sub>2</sub> O	7.49	7.48	7.95	3.08
Ig.loss	0.44	1.77	0.56	0.77
Total	100.15	100.38	100.26	100.17

分析者 関根, 山田

1. 井上1号
  2. 溪井平津
  3. "
  4. "
- 石英少い風化長石  
石英を含む塊鉱

a) 石英の少い風化長石——本鉱床の北半(井上1号, 溪井平津の北半) 一帯を占め原岩は粗粒のものであるが風化分解して粉状を呈するものが多い。加里長石・曹達長石各々半々からなり少量の石英, 白雲母, カオリンを含有する。

b) 石英を含む塊鉱——細粒で釜戸長石に類似した鉱石で, 多少風化して軟質の部分もある。所に依り粗粒で花崗岩質と見られる部分がある。黒雲母の多い所は廃石となる。

(3) 石垣鑛床(東山又は井上3号)

大津市平津町, 運搬は平津鉱床と同様で木橋 300 m を要する。

南北に長いベグマタイトで直立に近いレンズ状と見られ, 幅約 15 m, 延長 50 m 位である。鉱体全体に亘り石英と正長石が混交し, 石英は径 20~50 cm の塊状をなし,

長石がこの間を充めている。割目に富み酸化鉄に依り汚染せられ, 選鉱困難である。石英は全体の 20~30% を占め暗灰色低品位鉱である。長石は平津鉱床に劣り 2 級品程度である。充分選鉱行つたものゝ分析値は次の如くである。

SiO <sub>2</sub>	63.68%
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	21.00
Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0.10
CaO	0.00
MgO	0.04
Na <sub>2</sub> O	3.22
K <sub>2</sub> O	11.22
Ig.loss	0.76
Total	100.02

分析 前掲

鉱量は予想鉱量として  $9 \times 10^3 t$  この内 1~2 級 20% 程度

事業主 井上太郎

月産 10~30 t

(3) 陀羅谷鑛床

京都市伏見区醍醐陀羅谷, 石山駅より南へトラック 4 km, さらに西方へ馬車路 4 km。

鉱床は花崗岩と古生層の境近く, 古生層中に貫入したアブライト岩脈で, 走向 N20°W, 傾斜 70°E, 鉱石は井上2号の如き釜戸型アブライトで石英多く, 且つ割目に沿う汚染著しく良質でない。

鉱量は開発初期で算定困難であるが, 大量を期待出来ない。

事業主 井上太郎

(4) 南郷鑛床 (溪井南郷, 大江南郷, ヤマカ南郷)

鉱床は大体南北に長いレンズ状のアブライトが群をなして或幅を持ち南方へ連続しており, 採掘場のある部分では, 幅(東西)約 80 m, 延長 100 m 余に達する。アブ

第 3 表

	鉱床の規模			鉱石	鉱量	既採掘量	月産	事業主
溪井南郷	長 70m	幅 20m	高 20m	石英に乏しい白色 風化鉱(小レンズ)	推定 $2.5 \times 10^3 t$ (2級)	1.5 × 10 <sup>4</sup> t	150 t	溪井次郎
ヤマカ南郷				石英を含んだ風 化長石	推定 $2 \times 10^3 t$ (2級)			ヤマカ製陶所
大江南郷	EW 40	NS 20	厚 7	石英を含まぬ風 化鉱	推定 $3 \sim 4 \times 10^3 t$ 特選 20% 1~2級 30%	$4 \times 10^3 t$ (?)	150 t	大江兵治

ライトと母岩との境は鮮明な部分と漸移する部分とがあるが、長石鉱として取扱われる部分はアプライトレンズの中央部で、延長50~60m以内、幅30m以内である。

### (6) 石倉鑛床 (ヤマカ石倉)

栗太郡大石村石倉。石山駅南々東方11km、トラックを通じ得る。現場には軽索400mの設備がある。

鉱床は南側古生層の粘板岩、北側花崗岩の境目近く花崗岩中に発達するアプライトで、比高200mの斜面にある。鉱体は不規則な塊状で母岩へ漸移するが、稼行價値ある部分は大体直径35m位の範囲である。

鉱石は細粒の部分は不純分が少く、粗粒の部分は少量の黒雲母を混え、更に黒雲母と石英とが増加して周囲の母岩へ移化する。全体として焼けが強く、選鉱実収率50%程度である。

分析値は次の通りである。

#### ヤマカ石倉細粒

SiO <sub>2</sub>	68.87
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	18.78
Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0.12
CaO	0.00
MgO	0.09
Na <sub>2</sub> O	4.79
K <sub>2</sub> O	6.90
Ig. loss	0.48
Total	100.03

	分析者	前掲
鉱量	予想 1.7×10 <sup>4</sup> t	
事業主	ヤマカ製陶所	
月産	150t	

### (7) 結 言

平津鉱床のアプライトは石英少く不純分も微量で、特に井上1号、溪井平津のものは良質でベグマタイト質長石に匹敵するものと認められ、探鉱不十分であるが鉱量も大きく見込まれるので将来性を有するものである。

石垣鉱床はベグマタイトであるが質的にも特徴は認められない。

南郷鉱床は最も恵まれた立地条件であるが良質部は殆んど掘り盡され将来性に乏しい。

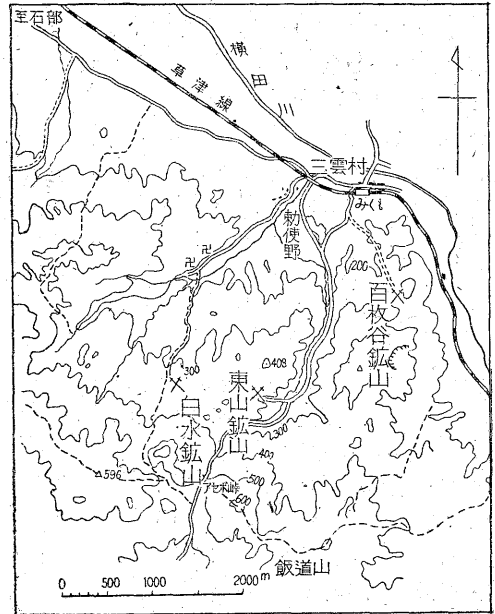
石倉鉱床は量的には残鉱多いが、質的には特徴のない鉱石である。

## II. 三雲地区の鑛床

### (1) 地質及び鑛床の概要

地質は大津市附近のものと同質の粗粒黒雲母花崗岩で発達する範囲は更に大きい。当地域内でも風化が著しく進んで各採掘場共かなり深部に至る迄サバ状を呈する。鉱床の規模は大津市附近のものに比し更に雄大である。

#### (2) 白水鑛山



第2図 大津市内及び附近長石鉱床位置図

滋賀縣甲賀郡三雲村大納言、三雲駅南方4km、馬車を通じる。

鉱床は塊状をなし直径100m以上に及び、鉱体内に母岩の喰い残しがかなり存在し、一塊が直径10m以上のものがある。鉱石は石英を30%程度含んだ中粒のアプライトで雲母は殆んど含有せず、全体に薄い焼けを生じている。

京大工学部沢井研究室による分析値は次の通りである。

SiO <sub>2</sub>	70.10	75.24
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	20.19	12.80
Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0.29	0.32
CaO	0.34	0.88
MgO	0.33	0.14
K <sub>2</sub> O	3.36	5.97
Na <sub>2</sub> O	2.90	3.07
Ig. loss	2.30	1.66
Total	99.81	100.08

鉱量	推定 1×10 <sup>5</sup> t
	予想 数10万t
事業主	奥村華山
既採量	1×10 <sup>4</sup> t
休山	

#### (3) 東山鑛山

三雲駅南方3.5km、馬車運搬に依っている。

鉱床は東西に延び、南北約100mである。鉱石は北に向つて粗粒となり、焼けは全体に亘り見られる。白水鉱

山の鉱石と同様で、焼けの少ない部分は良質である。

予想鉱量 2.0~3.0×10<sup>5</sup>t (良質部は約10%)

事業主 三雲村山林組合

月産 100t

#### (4) 百枚谷鑛山

北西へ約25m, 北東へ約30mのアプライト塊状鉱床で、粗粒部分の鉱石は白土状を呈し、石英分少く良質である。

予想鉱量 9×10<sup>3</sup>t (良質部40%)

事業主 葉加瀬宇三郎

#### (5) 結言

本地区のアプライト質長石鉱床は大津市内のものに比しさらに量的に大規模で、我國有数と見られ、採掘容易な点も特色である。質的には平津長石に劣る。白水鉱山は最も将来性に富む。

### III. 信楽地区

#### 八郎谷鑛山 (神山長石)

甲賀郡信楽町字神山, 信楽駅南東2km, 運搬は馬車に依っている。

鉱床は黒雲母花崗岩を母岩とする稍々東西に長い塊状アプライト鉱体で、東西約100m, 南北50m, 地並以上最高30mである。鉱体内には母岩の名残が見られる。鉱体全体に亘り割目に沿い酸化鉄の焼けがあり、純白の部分は殆んどない。分析値は次の通り。(分析者前掲)

SiO <sub>2</sub>	76.54
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	13.89
Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0.32
MgO	0.07
CaO	0.48
Na <sub>2</sub> O	3.18
K <sub>2</sub> O	4.54
Ig. loss	0.99
Total.	100.01

推定鉱量として地並以上を算定すると、4.5×10<sup>4</sup>t

事業主 乾 栄 一

既採量 1.2×10<sup>4</sup>t

月産 150t

なお信楽近傍には甲賀郡小原村, 朝宮村に産する柞原長石と呼ばれる鉱床があり、朝宮, 中垣の2鉱山があるが今回は調査しなかつた。

### IV. アプライト質長石に関する意見

我國の長石鉱床としてはペグマタイト, アプライト, サバ及びアルカリに富む陶石等を挙げることが出来るが、ペグマタイト長石は高品位ではあるが量的に乏しく、サバは量的に莫大であるが現在の所、不純分の除去が完全には行われ得ず、陶石類では長石に完全に代替し得るものが少い。アプライトは現在、岐阜縣釜戸の他、本報告に述べた諸鉱床が知られるだけであるが、量的にはペグマタイトとは比較にならない大規模なものが多く、今後長石資源として研究価値の大きいものと考えられる。質的に見て、ペグマタイト長石との大きな相違は次の諸点である。

1. 石英を常に含有する。(従つて不均質となる事がある)

2. カリ, ソーダの比に於てペグマタイトに比して、ソーダが多い。

3. 分析値の Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub> は比較的少いが、黒雲母が含まれることがあるので、焼成物に黒斑点の出る恐れがある。

以上の様であるが、1の石英含量は平津長石のように、殆んど含まれないものから30%に達するが、同一鉱床内では甚だしい不均質は認められない。3の黒雲母の点は、良質部では殆んど認められないので鉱体の選択、採掘、選鉱に注意すれば、ある程度避け得るものである。2のソーダに富む点は釉薬などに配合した場合の光沢、色調等に関係すると思われる。以上の点を考慮して今後の試験を進めれば、陶磁器用、ガラス用として充分に使用されるようになり得るものと考えられ、その場合、量の豊富な点と、生産費の僅少で済む点は大きな特徴となるものと思われる。

553. 612+613: 550. 8 (521. 53)

### 岐阜縣苗木町長石及びカオリン鉱床

安 齋 俊 男

Résumé

Feldspar and Kaoline Deposit near  
Naegi-machi, Gifu Prefecture.

By

Toshio Ansai

There are many feldspar deposits... aplite and pegmatite... around the area near the north-east of Naegi-machi. They are partly decomposed, becoming kaoline deposits, which are poor in reserves and are low in grade.